

(様式4)

平成22年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立仲町小学校 教諭 塩原 聡

1 派遣期日 平成22年10月6日(金)

2 研修先 学校名(会場名)

千葉県習志野市立実花小学校

所在地

千葉県習志野市東習志野6-7-2

<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/mihana/>

3 研修内容

実花小学校では34年にわたり、算数科の研究を進めている。現在は研究主題を「たのしさ・充実感が味わえる算数科学習のあり方とし、千葉大学教授を講師として、意欲を持って主体的に学ぼうとする子供の育成をめざしている。

実花小学校では、「算数的活動」を十分に取り入れ、子どもに作業的・体験的活動を経験させながら、子どもが主体的に問題解決を行えるように授業を行っている。しかし、前年度の実態から子どもが算数そのものにきちんと取り組めていないということ、また「めんどくさい」など算数そのもののたのしさや面白さが実感できていないことが分かった。

そこで、授業において、「たのしさ・充実感を」味わう場面としては、

- ・実際に作業や操作をしたり、体験したりしたとき
- ・数学的な考えを生かし、工夫して問題解決ができたとき
- ・授業内容がよくわかったとき
- ・知識や技能が確実に身についたとき
- ・自分の考えが認められたとき
- ・子どもの主体的な学習が成立したとき

子どもがどのような状況にあるときに「たのしさ・充実感」がもてたかは、

- ・問題に対して見通しが持てたとき
- ・新たな疑問が生まれたとき
- ・驚きや発見、不思議を感じたとき
- ・規則性が見つかったとき
- ・何か得るものがあったとき
- ・これを勉強した、これが分かったと思えたとき

との考えで研究を進めているそうである。

○研究主題

たのしさ・充実感が味わえる算数科学習のあり方

○授業公開

1年	たし算	2年	かけ算（1）	3年	三角形と角（三角形を調べよう）
4年	分数	5年	面積	6年	分数のかけ算・わり算

4 感想

5年生の台形の面積の求め方を考える授業では、比較検討の前に求積にはいろいろな方法があるということを知るために、隣同士でそれぞれの方法を確認させていた。分かった子どもは自分の気づきをわかりやすく説明することが求められ、分からない子どもは分かった子どもの説明をよく聞くこと、自分の分からないところや疑問に思ったところを確認する等少人数での話し合いが充実していることで、全体での話し合いではみんなに理解されやすい言葉を選んで話すことができていた。

全体での話し合いでは、図と式を関連させ、式をもとに図を使って説明したり、図をもとに式を使って説明していた。

同じく5年生のひし形の面積を求める授業では、ひし形の中に求積可能な既習の図形をイメージさせ課題解決にあたらせていた。ひし形の中に既習の図形をしっかりとイメージして取り組むことで、どの子も抵抗なく求積にあたることができていた。その後の、対角線が直交している四角形の面積を求める課題では、自作の教具を使用することで、興味深くわかりやすくひし形との関係に気づくことができていた。

校舎内全体に、算数科学習に役立つコーナー、掲示等がちりばめられていた。子どもたちは、休み時間も進んで教室や廊下の算数コーナーで算数に関するゲームや遊びを友達と楽しく行っていた。日常のなかで様々な算数に親しむ工夫が凝らされており、非常に感心し、参考になった。

